

邪不攻と民聲

発行日 十一月廿一日 (毎月三期)
編輯兼發行人 齊藤角治
福島縣平町南町七八八
發行所 警城之民聲社
廣告料 普通行五十錢
特別行七十錢
一部十錢一ヶ月廿錢送料共

正義は人の道に生る 悪辣な策動を粉碎し 諸橋氏敢然出馬表明

農銀重役候補として確定的に強味を有する平町諸橋久太郎氏の當選は一般が「彼の人のなれば」と深認し居る折柄全氏の出馬に一大驚撃をうけた、某派は飽く迄全氏を蹴落さんご凡ゆる策動を続けながらも諸橋氏起意なしとの宣傳流布に努め不認識極まる委任状取消の運動を株主個人毎に行ひ自派を有利に導かんごとしてある輩も現れ、諸橋氏起意なしご巷間之れ浮傳につごむる策動を悉知しつ、も「而かも縣下唯一を誇る釜屋王國」の主なるが故に名利に偏せず、正道に則り、氏自身は當初より出馬の意志は微動たにもせず唯株主よりの委任状に信賴し策動的表面潜行運動をなさなかつたに過ぎなかつたにも不拘、然も改選を目前にして某派の悪辣極まる委任取消の劣策現はるや全氏は非紳士的行動を常套とする彼等の心事を憎むご共にも、敢然縣財界のために貢獻せんごする意志愈々揚り消極的戦法を一轉、自ら陣頭に駒を進め此れに對立すべく決意のものごに去る十一日全縣下株主及び某派の悪宣傳に迷はされてゐる關係者各方面に左の如き挨拶状を發送して敢然策動者等の心膽を砕くごも寒からしむることごなつた。

挨拶状

謹啓愈々御清祥奉賀上候
扱來る十九日行はる、本縣農工銀行重役改選問題に付多大の御同情を蒙り多数委任状を御附託被下御厚情難有御禮申上候然るに近時小生起意無之旨を流布委任状取消し運動を爲す者有之哉に仄聞致候實は株式會社の重役は株主各位の總意に依り選任せらるべき筈のものにして悪辣なる手段方

法によるべきものに無之ご相信じ小生は素より積極的の運動等ご差控へ申居候へごも既に小生の爲め委任状御附託被下候各位を信賴し當然當選し得るものご期待能に候間斯る悪行爲に欺瞞せられざる様偏に御願申上度爲念以書中得貴意候

株主委任状の奪取戦 諸橋氏断然有利

三候補妥協絶望による結果株主任状の蒐集に努め濱通り一圓は委任状奪取戦も餘す處僅三日後勿論縣下各地にまで手を擴げての十九日に迫つたので縣下各地に於て、現在既に三派の手に集るとも猛烈な運動が續けられてゐるが、諸橋氏一萬を殊に濱通りから出馬の馬場四千金、馬場氏一萬、金成氏五房時(又兼幾世橋)、諸橋久太郎千内外と見られてゐるが、この(平)、金成通(石城錦)の三氏間中諸橋氏は本縣第一の釜屋王國を妥協せしむべく各有力者が奔走して社會的信用は他候補と走輪旋中であるが三派共態度頗る格段の相違で、手中に收めたる強硬で到底妥協の見込みなく委任状一万四千を擁して断然決戰投票の外はないものと見らる強味を示し、馬場氏亦縣内民衆に、三派共此れに備えて株主委政派唯一の候補者としてその所

劍閃

營利のため某博士の人格をきつつけ刺へ自己の欲望を充さんとすし果し得なかつた彼れ卑劣なる某醫の心事を想ふ時寧ろ憐然を覺ゆるものがある「邪は正に勝たず」と云ふ古人の諺言を座右の銘として反省してはどうか。

農銀重役として 諸橋氏最適任

諸橋久太郎氏は縣下唯一の財力家であり併せて最高學府出の秀才として特に理財に富むた人である。尚特筆大書すべき事は氏の如何にも寛容にして大義名分を重んずる眞精神の所有者であることご我れご縣民が等しく周知し居る處である。

當選御禮

今回の四倉町會議員補欠選舉に際し不肖をも顧みず立候補致候處各位、多大なる御同情により當選の榮を擔ひ候段感謝に堪はず不取敢以紙上御禮申上候

豊田耕作

坊主ありご巷間耳にした。果して然りとせば御釋迦様は草葉の蔭で泣いて居られることであらう。

では恩人の悪口さへも云ふ世の中だからな……況や此の工事監督には坂本翁が加はつて居るではないか。

昔は新聞記者と云ひば中々中紙のことが……今は反對に相手から新聞を書くか……云はれる尖端時代に……所謂目にご一定字のないダクモない野郎共が記者だ……何んご生意氣に威張るから……はせられた。

富岡通信

○今や新興氣分に燃えつゝある富岡町は多事である。各商店の店頭は都會化し、土木監督所の新建に續いて小學校講堂の建設等々益々益々其の第一歩の段取りを見せせてゐる。町長も氣分の良いことであらうし働き甲斐を認められる事にもなる理である。○請負業者としての林七郎氏近來グン／＼信望を嵩め眞に氏の手腕を認めらるゝに至つた將來東北の親分として立つに至る事は火を見るよりも明である。○坂本榮助翁既にして六十路を超いて尙且つ自轉車で用務急はしく飛び廻つて居る。彼の分で押して行けば百歳以上の壽齡は確かに保てる筈になる亦同氏頗る氣概と温情に富む人であつて、正論のためには身を挺して飽く迄で論じ相手を必ず敬服せしめずには措かないのである。亦情義による事になると染み／＼と涙を流して相手を撫愛する故に翁を往古の坂上田村鷹將軍の再現者としての尊稱を與へてゐる。○大原消防組頭 曾つて本縣消防界の偉才であり殉職者として仰がれた令兄緑川喜三郎氏其の儘に嶺南縣下消防界に光つて居る人である。現在の富岡消防の偉容こそは眞に氏の指命に倣つ處多い。○縣議山田六郎氏の活動家も一年越へて見られぬ。記者は會見したが、それも約十分間計りだつたが、汗を拭きながら巻脚絆で溜池視察とかで飛出してしまつた。よくも急はしい活動家ではあるのである。

大久村便り

○這般収入役より助役に榮進した飯島助藏氏、柳井村長には最も打つて付けの女房役である。村内の信望又多大、同氏の助役榮進一層大久村に光明を與へたことになる。これと同時に敏才で而かも鐵兜の稱ある強口氏の収入役就任、適所適材である。○同村の顧問格にある石川倉吉氏東京に朝鮮に警察官の重責を擔つて敏俊なる手腕を振つた人者であるが、今は山紫水明な郷土に園田を耕し無言の内に村内一般に對して教訓を垂れてゐる。尙氏は常に勝れたる郷土の景風紹介に盡力されつゝある。○村長柳井義一氏 至つて淡泊な人、負け嫌いな人、うそは

石山博士の人格は磐城共濟病院の基礎

斷然確立す

石山謙郎博士を磐城共濟病院院長見たことは事新らしく云ふ迄もして迎えて以來同病院の内容なきが、石山博士が來院する迄其他に對して總てが改善され今は種々迂曲曲折の事情があり一や病院には患者充溢し益々伸展股株主に於ても眉宇に憂漂を見の盛況を誇ることとなつた。せつ／＼あつた事も少なかつたのそれは云ふ迄もなく院長の誠意であつたが、今に至り彼の繁榮による賜物であつて當然の事と信用を築き上げるに至らしめた云ひ得る次第であるが、曾つて博士の識見手腕と人格に對し寧同病院創立の當時磐城郷土患者一般株主は感謝の辭を以て報の至便の爲めに……として郡下各有志が株主となつて設立を

一德合資會社

小名濱支店開店早々盛況

白石支店長の信望と野木外務部主任は内郷村の素封家の出で主任の手腕は小名濱支店の盛況頗る氣魄に富んだ眞正直の人格が悉々之れを物語つてゐる。野者であるが、此の人材を特に選

付かない人、村政を熱心に見る人、そふして自ら陳頭に立つて農事獎勵に心身を盡す人である。石城民政黨で執行

物故黨員追悼會

石城民政黨で執行

石城民政黨では多年黨の爲めに盡瘁し最も功勞ある左記諸氏の英靈に對し十七日午前十時より平町長橋町性源寺に於て遺族並に多數黨員參列の下に壯嚴なる追悼會を執行する事となつた。渡邊寅次郎、金子信三、遠藤林松、木田織江、若松松三、猪狩金之助、志賀伊之松、松本健吾、根本喜助、大平兵助、鷲清吉、鈴木省吾、鈴木房次郎、長瀬龍之助、森重次郎、後藤利吉郎、政井佐平、仲田八百藏、其他

杉山今朝吉氏 愈々常磐炭界に勇躍

正しき信念に生き愈々出て益々驚異的專業の進運を見せつゝ杉山氏は過般磐炭との間に交渉成つた引受五萬坪鑛區は斯業界の一般が垂涎せられつゝある優良炭の埋藏されある鑛區である。同氏の得意や推して知るべきであらう。

▲中山支店長來任 前任地眞岡町支店から平町支店へ榮轉された中山毅雄氏は常磐

社告 武岡 清 双相支局長 右者は今般双、相支局長として入社致候に付本社同様御聲援御願申上候 昭和九年八月十五日 磐城之民聲社

福島縣赤井村 古市粘炭探業所 主礦 古市喜三郎

優良炭 杉山今朝吉主礦

植田町 秋山市造 土木請負業 渡邊長作 福島縣湯本町 電話四〇番

三瓶電機商店 磐城國平町仲町五番地 電話五九七番

カフエーバラダイスへ 是非に……!! 皆様の御期待される召上り物……!! 美人揃ひの女給は必ずスガクしい サアビスで皆様をお迎致します。

本社 福島縣石城郡好間村 株式會社 小田礦萩原鑛業所 創立大正七年 資本金六十七萬八千八百圓 取締役社長 萩原申八 取締役 園部政治 監査役 吉田伴吉 草野順平 神谷伊三雄

體育獎勵 學生青年 大角力大會 近日開會 主催 日本拳闘協會員 金華山大三郎

石城郡平町 磐城共濟病院 院長 石山謙郎 事務長 鈴木寶雄 電話 四一六番

氷問屋 山崎武賴 電話一二番

中野洋品店 平二・電五三

葬儀用一式用達 造花 博盛堂 平町搔搦小路

酒味醬油 誠屋商店 平町三丁目横驛通 電話五四九番

御仕立物の…… 御用命は是非 江川屋へ 平三丁目

丹野齒科醫院 平町田町